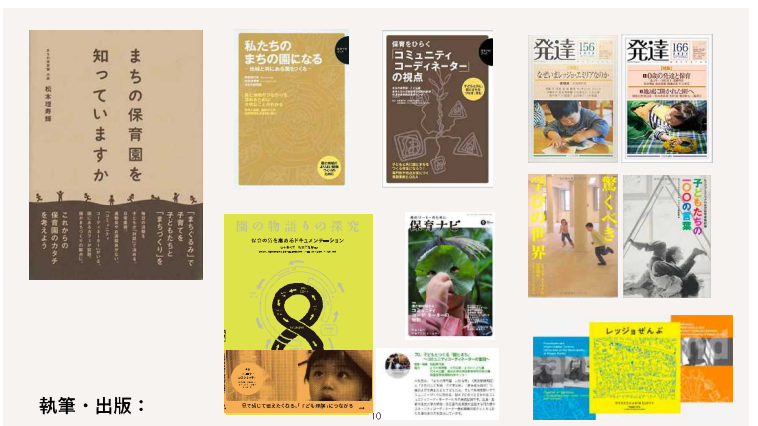
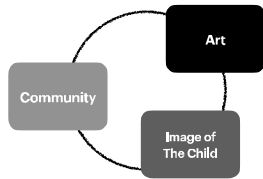




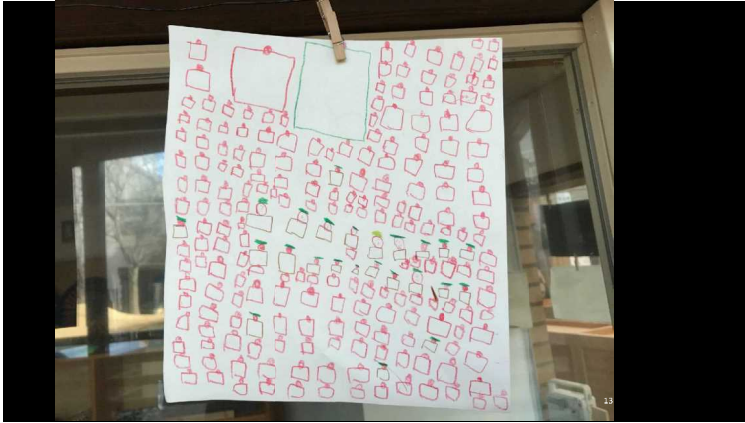
REGGIO EMILIA APPROACH
レッジョ・エミリア教育

イタリアのレッジョ・エミリア市の全ての市立学校で取り入れられている教育。1990年代にアメリカ版ニュースウィーク誌に取り上げられたことで注目され、それ以来、世界的に高く評価されている教育アプローチ。Googleやディズニーの附属幼稚園にも採用され、今、更なる注目を集めている。子どもたちの創造性を引き出すアプローチと、常に、コミュニティの参加から教育がアップデートされていくことが特徴。種固とした子ども観・教育哲学をベースに置きながらも、社会のあらゆる資源・世界的なネットワークを活かした、真に開かれた学校として、学校が「最先端の学びのコミュニティ」となっている。

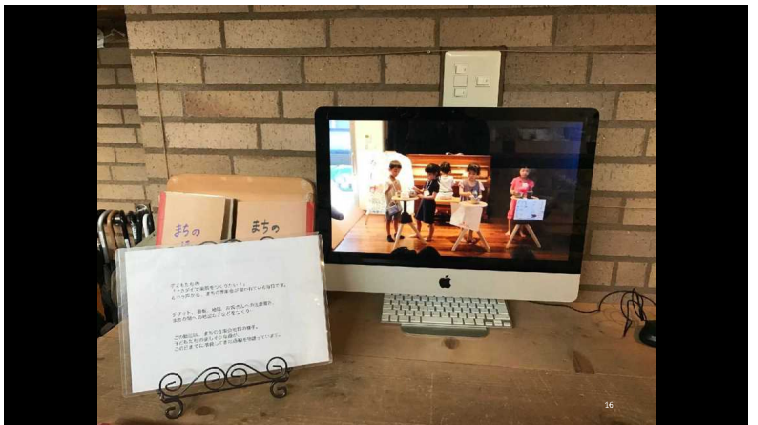


一人ひとりの、素敵さ





一人ひとりの素敵さは
は
クラスを盛り上げる



アイデアを生み出す

19

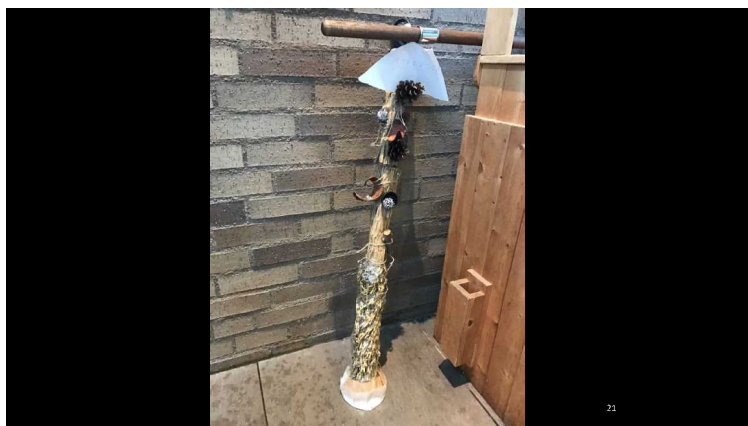
1から100を生み出す力 1月24日

まちの長寿園 小竹向原の園庭には、固定遊具と呼ばれるものがほとんどありません。置と作る時からの、「既存の遊びに縛られず、自然の中から子どもたちが探究を見つけやすい環境」という想いを、大切にしたいからです。

その環境の中での、彼らの「探究を見つける」能力は、私たちの予想を遥かに超えてきます。

1本ずつ独立していたロープを繋ぎ合わせ、木の板やマットを組み合わせてプランコにしたり、木の枝に両足をくくりつけて、足で渡るプランコにしたり……

1の可能性から、100、もしくはそれ以上の探究を生み出す。蒸らかく、良い意味で負荷でいる彼らの力は、いつまでも見習い続けていきたいものだと感じます。



21



22

出会いが生まれる

23



24



まちをつくりながら、
何か足りない・・・そうか、



まちには、“音”がある！



26



サウンドアーティストと探究



26



はらじゅくえきのこうじのおと



おんでんしょうてんがいのこうじのおと

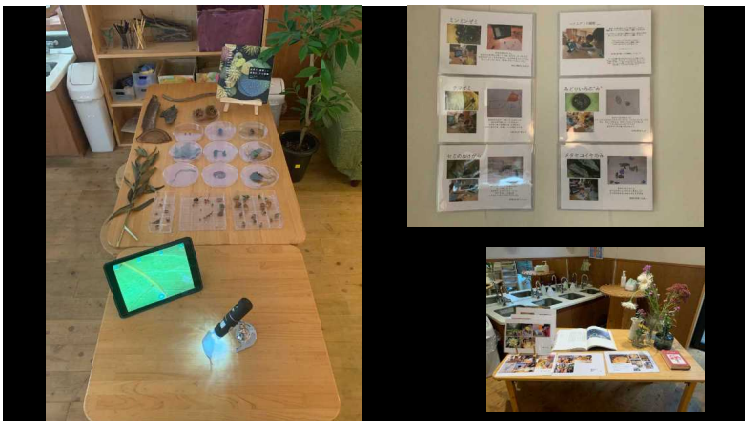


はらじゅくえきのこうじのおと

27

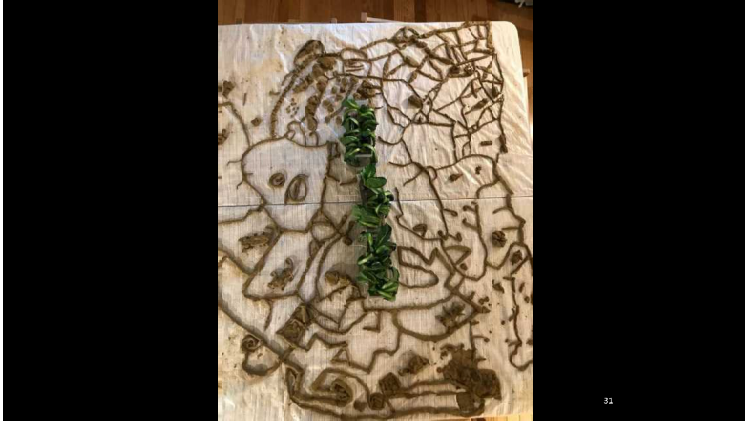
研究者を生む

28



アーティストに会う

30



31



32

哲学者になる

33



菜の花は、タネで増える
菜の花の「いちばん初めの1本」は
どうやって生まれたの？

プロセスが、
まるごと、価値がある

35



36

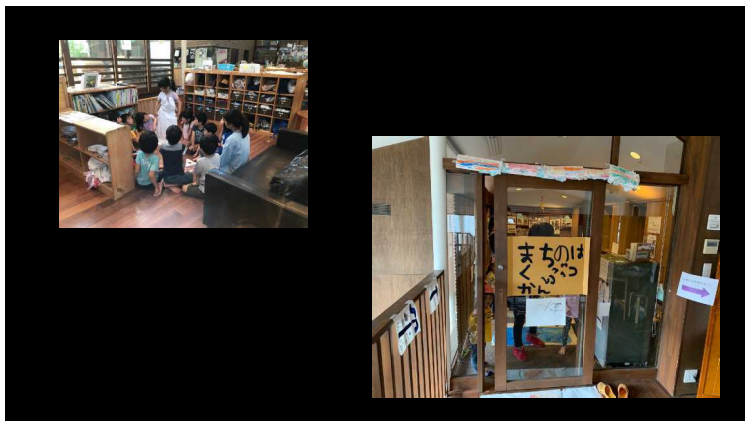
ちがいが、たのしい

37



発表したくなる

40



コミュニティも、たのしい

43



44

せんせいたちも、たのしい

45



園・学校は、地域の
まちづくりの拠点になる

47

園・学校は、地域の
まちづくりの拠点になる

48

地域の「ウェルビーイング」の拠点へ



興味・好奇心

49

50



51

52



53

54



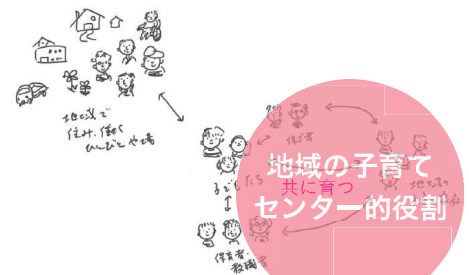
56



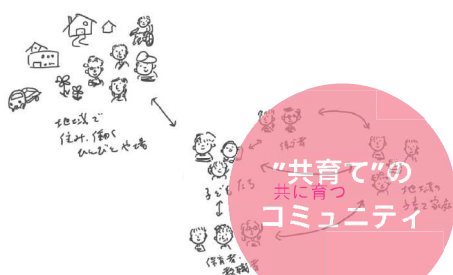
56



57



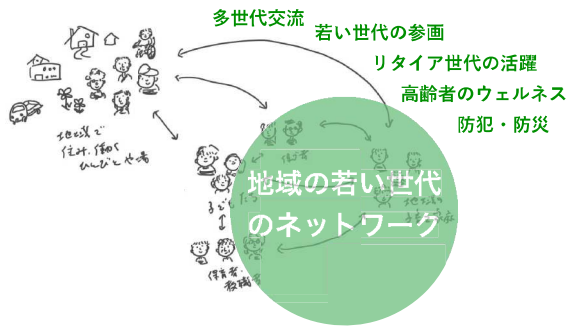
58



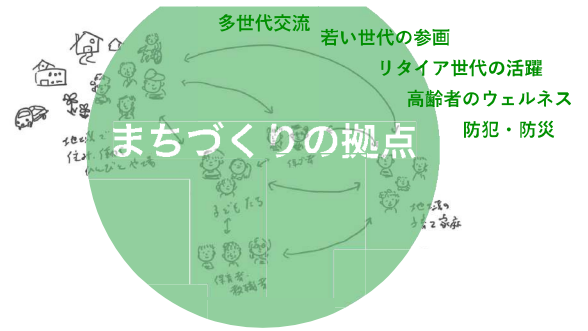
59



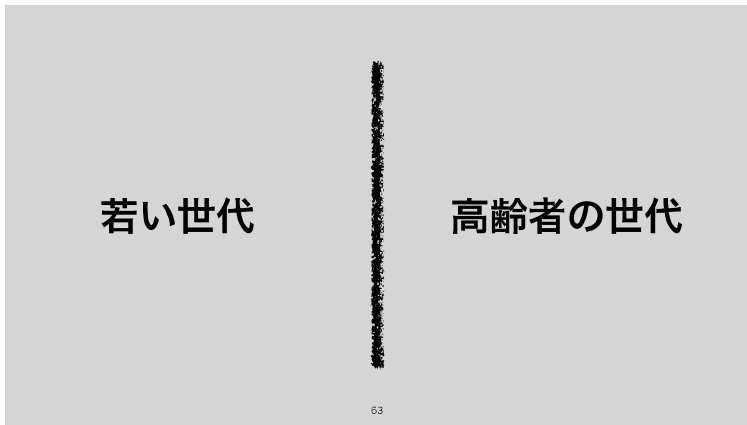
60



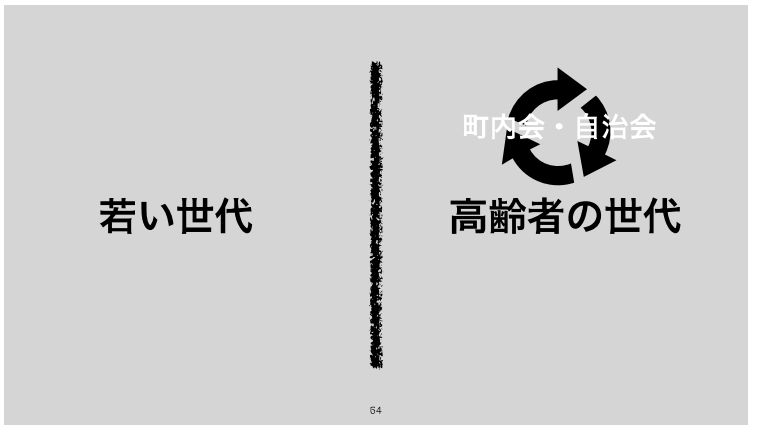
61



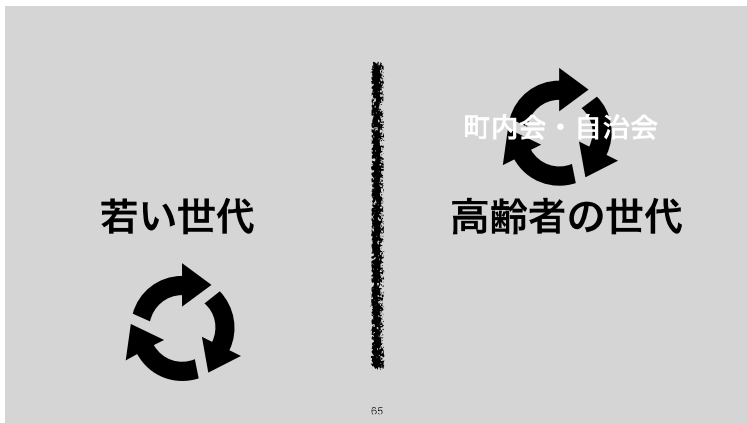
62



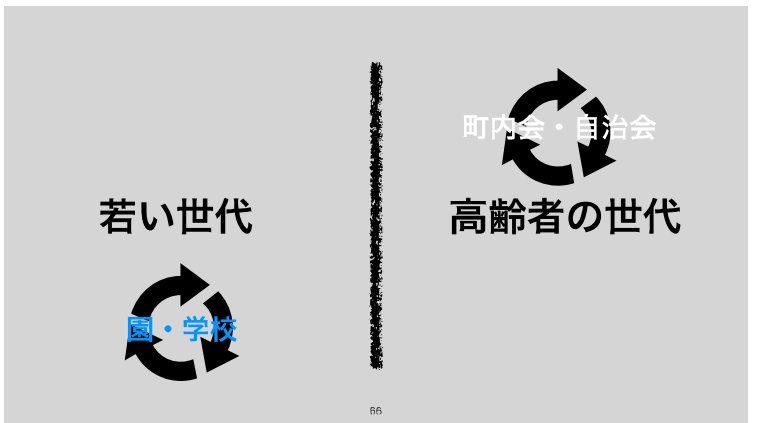
63



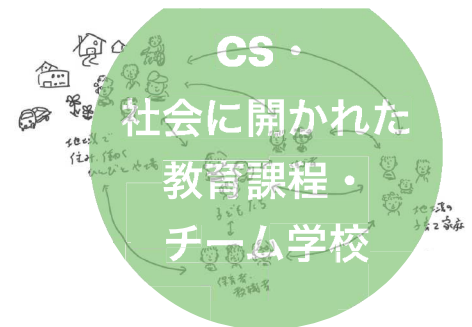
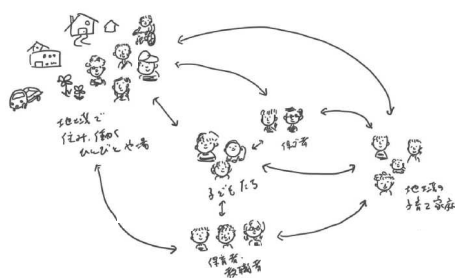
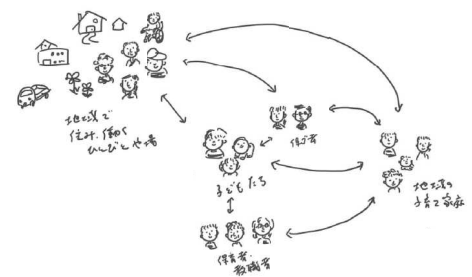
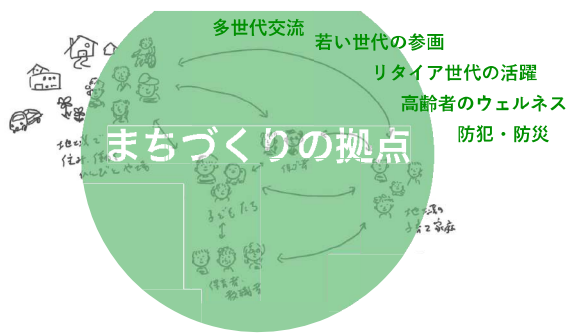
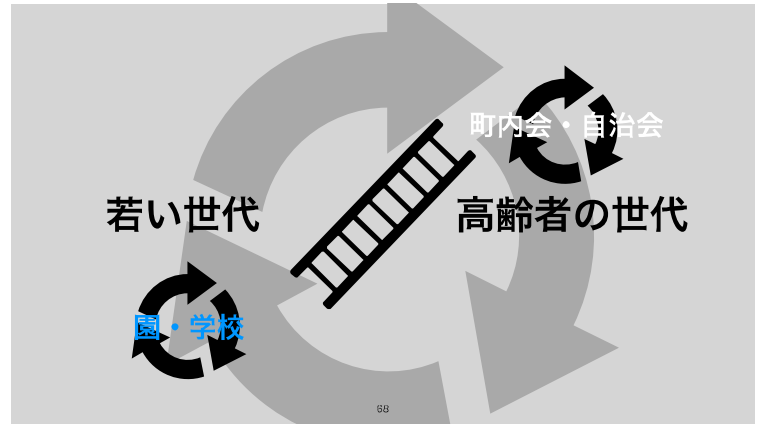
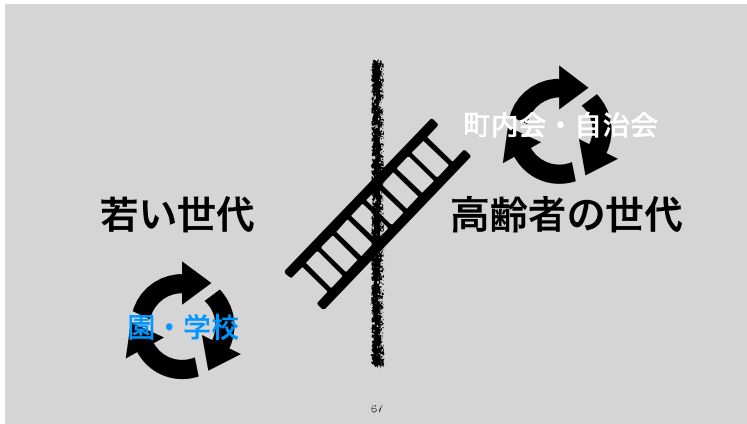
64

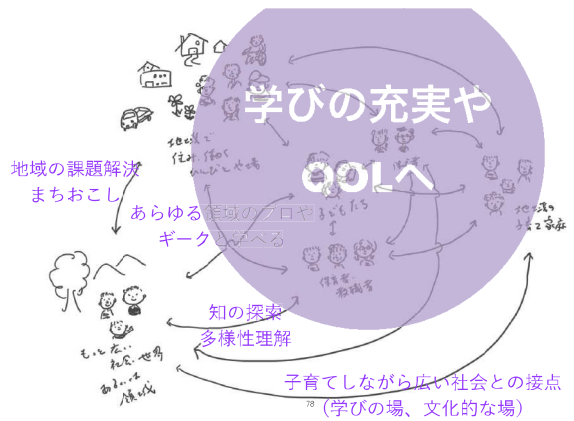
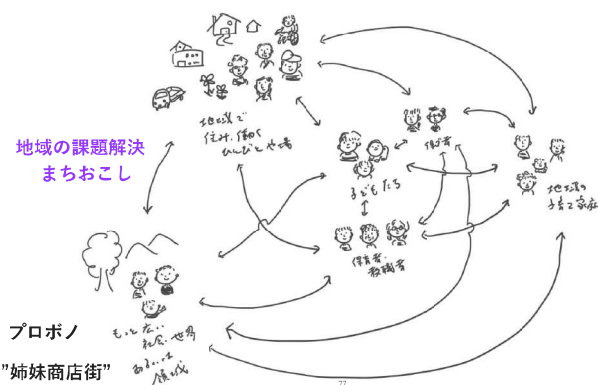
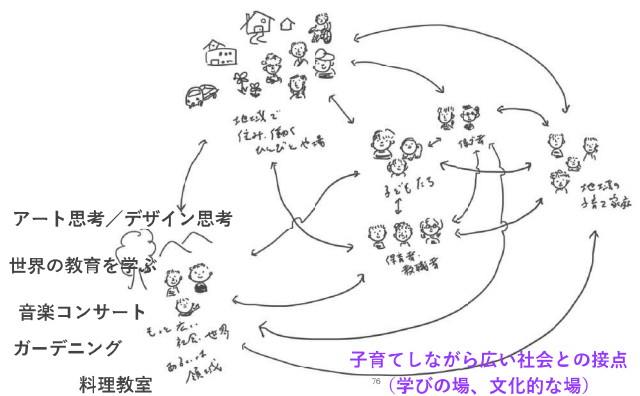
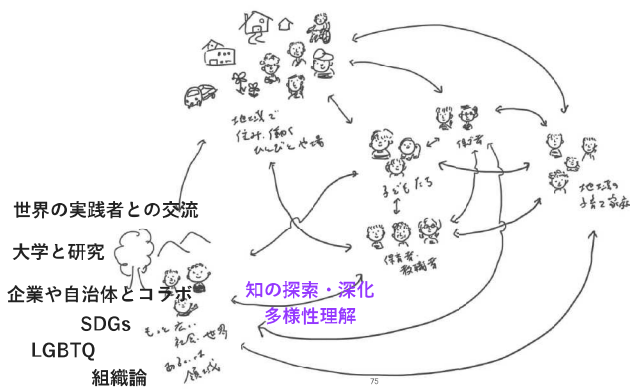
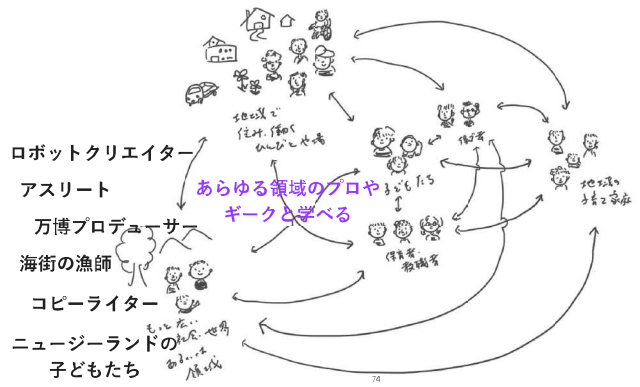
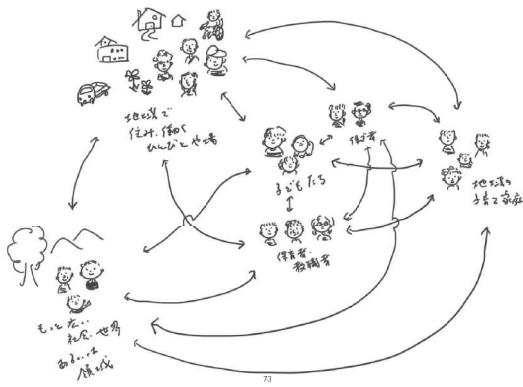


65



66

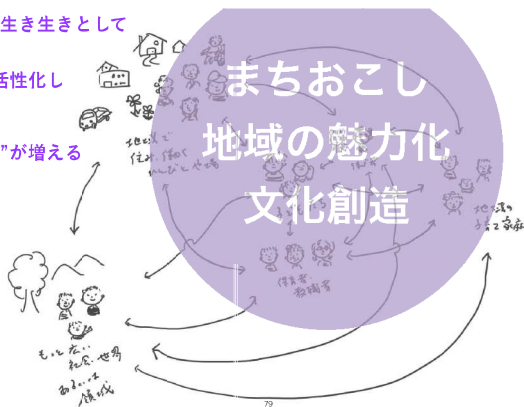




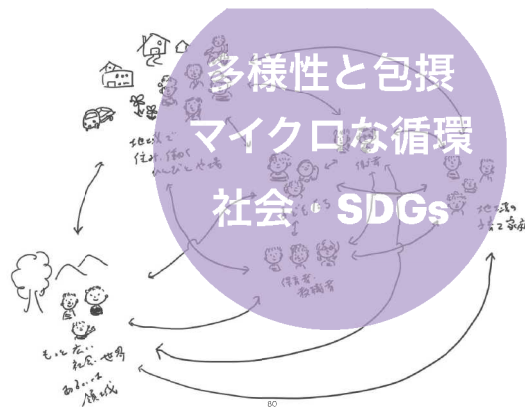
まちの人が生き生きとして

交流が活性化し

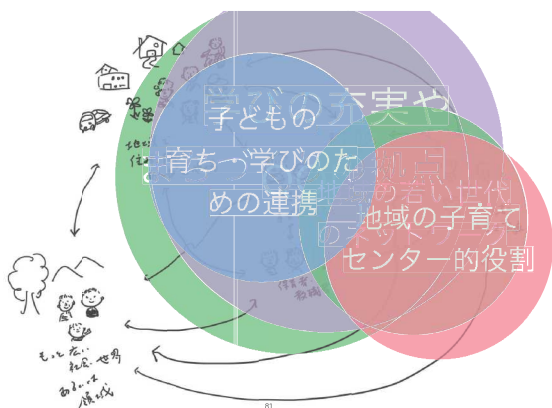
まち"自慢"が増える



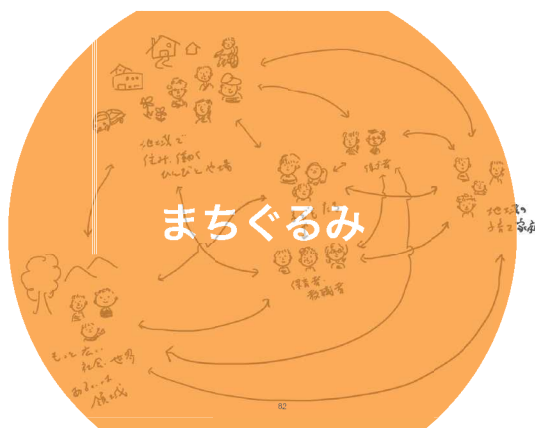
多様性と包摂
マイクロな循環
社会 SDGs



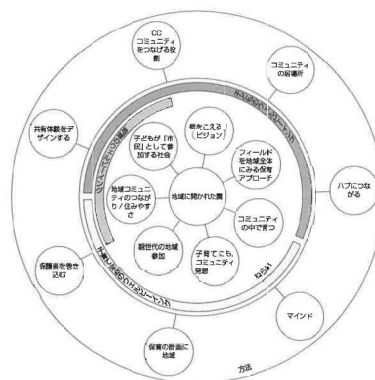
子どもの「五実」
育ち、学びのた
めの連携
地域の子育て
センター的役割



まちぐるみ

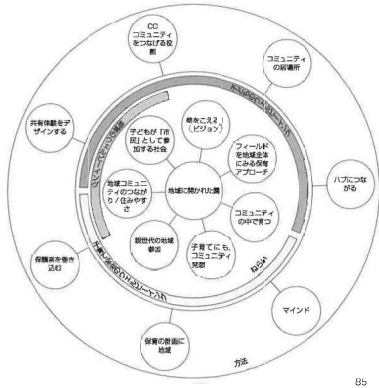


教育の
高度化・多様化
+
社会の
ウェルビーイング拠点
としての園・学校



図・学校が、地域のウェルビーイングのためにできるアクション

1. コミュニティをつなげる役割を置く
2. コミュニティの居場所づくり
3. 「ハブ」につながる
4. つながるマインドを醸成する
5. 園・学校が計画に地域を入れる
6. 子育て世代を積極的に巻き込む
7. 多様な共有体験をデザインする



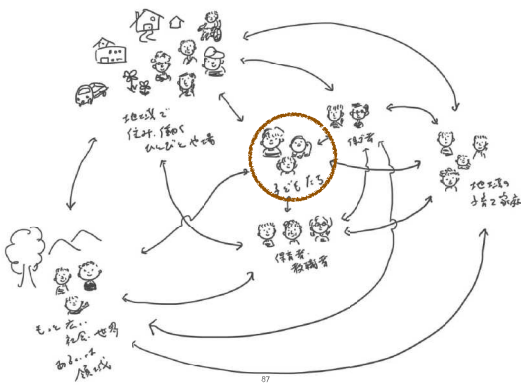
図・学校が、地域のウェルビーイングのためにできるアクション

1. コミュニティをつなげる役割を置く
2. コミュニティの居場所づくり
3. 「ハブ」につながる
4. つながるマインドを醸成する
5. 園・学校が計画に地域を入れる
6. 子育て家庭を積極的に巻き込む
7. 多様な共有体験をデザインする

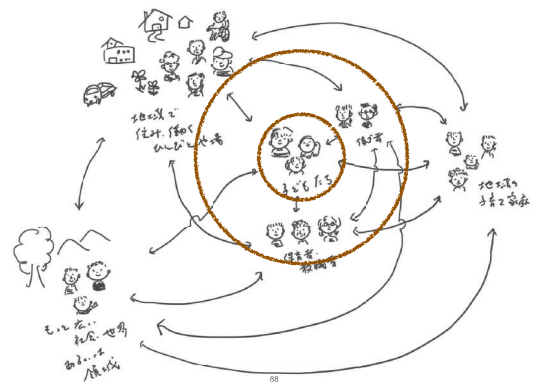
85



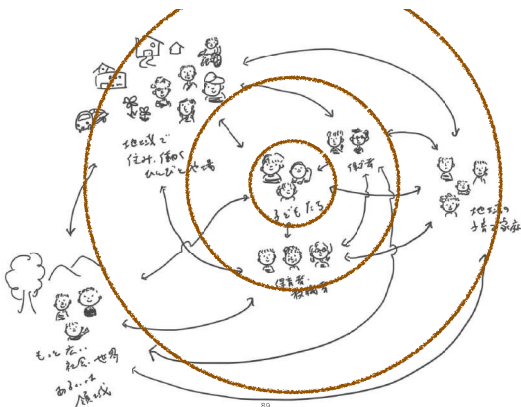
86



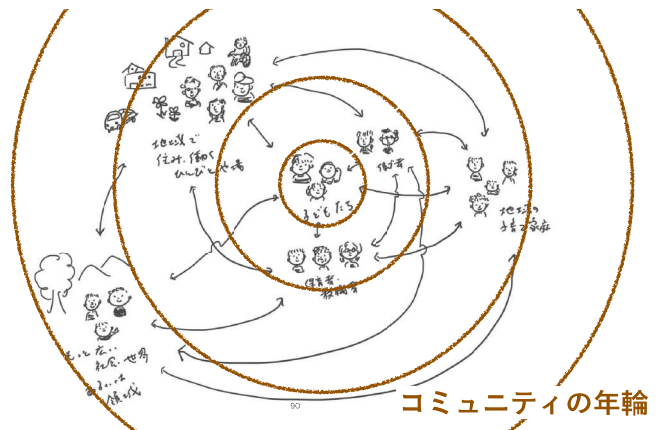
87



88

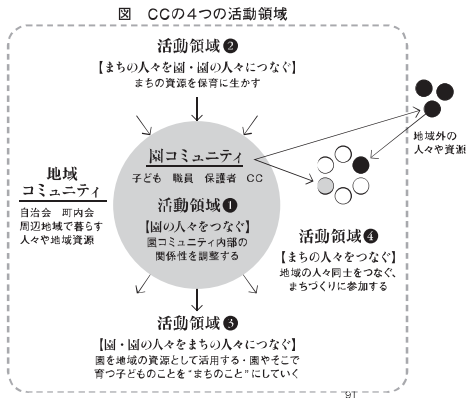


89



コミュニティの年輪

90

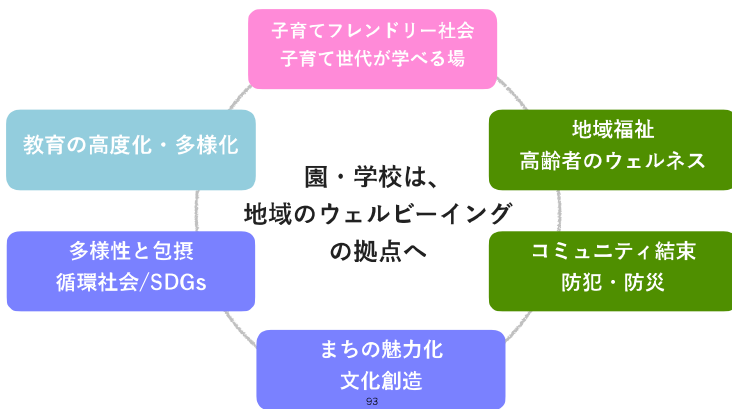


東京大学教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター
高橋特任助教

コミュニティコーディネーターについて

- ・専任の職員として「常駐」
子どもたちや教員、保護者との信頼関係や、各当事者の状況をよく理解するため
- ・さまざまなバックグラウンド
必ずしも教員免許や保育士資格いらない
- ・地域・学校のニーズや特性に合わせた人材
地域特有の課題を解決する得意分野を持ち、地域の魅力を感じている人がベスト
- ・知見共有・学び合いの「cc会」に参加
各地域での実践例を参考に、共創するネットワークに参加

92



93

理想的な子どもの環境づくりは、
理想的な社会づくり

94